

緩和ケアについて よくある質問

Q1：子供がいるのですが、病気のことを伝えるべきでしょうか？

A1：お子さんに病気のことを伝えた方がいいのか、どうやって伝えればいいのか、お悩みの方もいらっしゃると思います。伝えることは不安かもしれませんが、全く伝えないとお子さんの方が不安を感じることもあるようです。例えば、「Hope Tree」のホームページをご参照ください。当科でご相談に乗ることも、一緒にお子さんにお伝えすることも可能です。

Q2：自宅で過ごしていますが、介護する家族が疲れてしまい、休養が必要です。

A2：例え患者さんご本人の体調に変化がなくても、介護するご家族が疲れてしまっただけでは闘病生活を続けることができません。例えば1週間、2週間など、期間を区切って入院していただき、その間にご家族に休養をとってもらったり、外出してもらったりすることも可能です（レスパイト入院）。無理しないことが長続きするコツだと思います。

Q3：どんな病気でも受け入れてもらえるのでしょうか？

A3：緩和ケアの対象はがんを主としていますが、それ以外の病気も状態によっては対応しています。また、がんであっても専門的な治療や処置が必要な場合は、当院では対応できないことがあります。

現在かかりつけの病院からの情報を当院の「医療相談室」にいただければ、対応可能かどうかをあらかじめ検討し、ご返事を差し上げます。判断に迷う場合 や、かかりつけ病院を通さず直接ご連絡いただいた場合には、外来を受診していただいたうえで判断させていただきます。

Q4：緩和ケアを受診するよう主治医に勧められたのですが、もう何もできないということでしょうか？

A4：進行し、治療ができなくなったから緩和ケア、というわけではありません。

がんと診断された時、手術を受ける時、再発が分かった時、治療が出来なくなった時、など、その時々でいろいろな苦痛や悩みがおありだと思います。

緩和ケアはそれらの苦痛を和らげ、その人らしく過ごせるようにお手伝いすることが目的です。

現在受診中の主治医の先生も、手術や抗がん剤治療の必要な患者さんをたくさん抱えているため、ゆっくりと診察ができないこともあると思います。決して「見捨てられた」わけではありません。

当科を受診される方も、いろいろな理由でこられます。痛みなどのつらい症状をもっと和らげてもらいたい。遠方の病院で治療中なので、近くにも何かあった時に対応してもらえる病院があると安心。治療中だけどいろいろと心配なことがあり、もっと話を聞きたい、あるいは話を聞いてほしい。できれば自宅で過ごしたいけど、どうすればいいのかわからない。自分の体のことだけでなく家族のことや経済的なことまで相談に乗って欲しい。など。

当科を受診中であっても、必要であれば、もとの主治医の先生と連携して再び検査や治療をお願いすることもあります。

まずは受診して、気がかりなことを聞かせて下さい。

Q5：病気のことを告知していないと受け入れてもらえないのでしょうか？

A5：病気についての説明を希望される方、希望されない方、人それぞれです。聞く権利も、聞かない権利もあります。ただ、病気のことを正しく理解していただいたほうが、その後の治療がスムーズにできたり、よりよい過ごし方につながることもよくあります。

緩和ケア科を受診すること、緩和ケア病棟に入院することについては、本人にも了承していただく必要があります。

Q6：がんそのものの治療はしてもらえないのでしょうか？

A6：病気の種類や外来患者数にもよりますが、状況によってご希望に沿えるようにしています。緩和ケアと並行して抗がん剤治療も受けたいという方や、現在受診中の病院が遠くて通院が大変なので当院で治療をお願いしたい、という方もいらっしゃいます。ご相談ください。

専門的な治療については、当科ではなく各診療科に依頼することもあります。

Q7：免疫療法や民間療法などを受けたいのですが。

A7：一般の病院やクリニックで行われている、自費診療の免疫療法はお勧めしません。効果が期待できないものがほとんどです。

民間療法で効果の明らかなものも今のところありません。当院でお勧め出来るものはありませんが、ご希望があれば、不利益なことがないかぎりお手伝いします。

Q8：主治医に「余命は〇〇ヶ月」と言われました。

A8：余命を告知されたとのことですが、それはあくまでも平均的な数字です。たとえ同じ病気、同じ状態の人でも、個人差があります。

数字にとらわれないでください。今できること、やっておくべきことを考え、どんどんやりましょう。「最悪にそなえて、最善を期待する」という心構えも必要です。